

〔いつの日か〕

“今から数億年経ったある日、彗星との衝突で大きく軌道が逸れて既に冷たくなった地球に、宇宙人が降り立ったとしよう。彼等は何を発見するであろうか。

一見何の変哲もない荒寥とした星面の風景の中から、鋭いハイテク的探索の手で廃墟を見出し、宇宙船に持ち帰って分析し考察した結果、数十億年と推われるこの星の歴史の中に、閃光のように誕生して急速に発展し、突如として消えていった先住生物による驚く程の優れた技術と共に、さまざまに予測される事情や幾多の背景の中で盛衰を繰り返し、自らの^{サガ}性の中に潜む矛盾を解決し得ぬ儘、跡を絶ったその先住生物の古代史とを、異様に発達した英知と洞察力で見出すに違いない。”